

＜ 今日の説教のポイント ルカによる福音書 18 章 35～43 節 ＞

### 1 盲人の信仰はご利益信仰？

一読すると、「見えるようになりたい」と強く願い続けた盲人の願いがイエス様の心を動かした話、という気がします。とすると、この話は「熱心に信じれば聞かれる」と言いたいのでしょうか？ だとすると、「聞かれないのは信仰の熱心さが足りないから」になり、願いが聞かれるために信じるご利益信仰と同じような気がします。しかし、そうではありません。なぜでしょうか？ 二つの点に注目です。

### 2 盲人が叫び続けた「ダビデの子イエスよ」が持つ意味は？

一つは、この盲人が「ダビデの子イエスよ」と呼びかけ続けている点です(38, 39, 20:41-44)。彼は、イエス様がダビデ王の末に与えられる約束の救い主であると固く信じているのです(1:32, 69, 2:11)。彼を叱りつけて黙らせようとした人々との違いを思われます。それがこの時イエス様が彼を呼び寄せられた理由です。この盲人は、治りそうな機会にはいつでもこの時と同じ様にしていたのではないのです。イエス様だから信じる — ご利益宗教とは違う点はそこにあります。

### 3 盲人が見えるようになった後にどうしたかが大事。

もう一つの注目すべき点は、見えるようになった後、「神をほめたたえながら、イエス・キリストに従った」(43)ことです。「イエス様、ありがとうございます」と言って去って行ったなら、彼にとってイエス様は目に見えるようにして下さったお方、そこまでの方です。しかし彼は、「どんな難儀が待ち構えていようとも自分はこの方と共に歩む」、そういう道を選び取ったのです。直前の個所(31-34)から読むとそう思われます。ヨハネ9章の生まれつきの盲人の話も同じです(9:22, 27, 39)。

### 4 「あなたの信仰があなたを救った」の真の意味。

なぜ「あなたの信仰があなたの目に見えるようにした」と言われなかったのでしょうか。目が見えるようになることがゴールではなく、主イエスと共に生きることこそがゴール、救いだからです。この話の示す最終ゴールがそこであることを、今これを読む私たちは思い巡らしておく必要があります。私たちはそのゴールに辿り着き、その中を歩んでいるのです！ 「見えない者が見えるようになった」のです(ヨハネ福音書9:39)。私たちも、どんな苦難の中でもこのお方を送って下さった神様をほめたたえながら歩み続けたいものです。